

1 60年度総会、講演会等

第4回目のお茶の水地理学会総会は、4月20日(土)午後2時半から一般教育棟2号館102室にて開催された。出席者は40名。恒例により議長(武田むつみ氏)を選出、浅海重夫総務の挨拶のあと、59年度事業および同決算が報告され承認された。次いで協議事項に入り、会員状況と新入会員名簿の紹介、60年度事業計画、同予算案についての説明があり、いずれも承認された。なお、1984年10月25日逝去された赤木健先生の冥福を祈り全員黙禱を捧げた。

総会に続き午後3時より講演会が開催され、大学院博士課程在学の田中恭子氏(修士52年入学)の「東京西郊のモータリゼーションの発達と土地所有」、井内昇教授の「都市の現実—ニュータウンの盛衰を例として—」の2つの講演が行われ、午後5時過ぎ散会した。午後5時半からは、茗荷谷駅近くのレストラン「土味」で懇親会が開かれ、36名が参加して盛会であった。

2 談話会

1985年11月30日(土)に通算第54回談話会が行われ、長崎純心女子短大の滝野実氏(元教務補佐員)の「古典にみる火山活動」と題する講演があった。引き続いて、教室でささやかなビアパーティーが催され、和やかな雰囲気の中で、「地理学を職場・仕事にどう生かしてきたか」というテーマのパネルディスカッションが行われた。出席の話題提供者は原裕子(都立石神井ろう学校教諭)氏であった。出席者25名。

3 見学会

1985年4月6日(土)に都留文化大学教授の和田明子氏(女高師卒業生)の案内により甲府盆地の巡検が行わ

れた。参加者11名。一宮農協をたずね果樹栽培と農家経営について説明を受けたあと、2班に分かれ農家の聞きとり調査を行った。

なお、1985年8月下旬に予定されていた房総巡検は、参加希望者が少なかったため、中止となった。

4 ニューズレター発行

No.7 1985年6月5日(7ページ)

No.8 1985年10月25日(7ページ)

ニューズレター8号では、54回談話会でのパネルディスカッションに先がけて、「現在の仕事と地理とのかかわり」をテーマにした、卒業生会員からの投稿記事が6篇紹介された。

5 その他

a. 昭和61年度総会、講演会、懇親会は、5月10日(土)に開催の予定である。

b. 役員(昭和60年度)

総務 浅海重夫

企画 式正英、井内昇、阪口陽子、瀬戸玲子、東山セツ子、金子晶子、向後紀代美、滝沢由美子

編集 浅海重夫、井内昇、栗原尚子、佐藤由子、鈴木陽子、田中恭子、木全令子、石川顕子

会計 三上岳彦、渡辺真紀子、厚井和子、中島直子

庶務 式正英、内藤博夫、渡辺真紀子、見山久子、武田むつみ、河井みどり、室伏朝子

c. 会員数(1986年2月28日現在)

教官会員(卒業生を除く)5名、学部卒業生会員327名(卒業生467名のうち)、大学院・専攻科修了会員11名(終了者22名のうち)、学生会員79名、特別会員20名(会費免除会員6名をふくむ)。会員総数423名。

会員消息

地理学教室動向

専任教官の担当科目（60年度）は、ほぼ従来どおり。
浅海教授：地理学概論，地質学，土壌地理学，自然地理学実験Ⅱ，地理学演習Ⅱ。

式教授：地誌学，地図学，地形学Ⅰ，地形学Ⅱ，地理学演習Ⅲ。

井内教授：地理学概説，集落地理学，都市地理学，地理学演習Ⅰ。

内藤助教授（前期のみ）：経済地理学Ⅰ，日本地誌Ⅰ，経済地理学Ⅱ。

三上助教授：気候学Ⅰ，気候学Ⅱ，自然地理学実験Ⅰ，地理学演習Ⅱ。

栗原講師：一般教育，地図学演習，外国地誌Ⅰ，地理学演習Ⅰ。

以上が学部専門科目担当分で，この他に各教育が地理学演習Ⅳを，また大学院の講義と演習を担当した。

非常勤講師は次の11名に依頼した。

高橋伸夫（筑波大，外国地誌Ⅱ），滝沢由美子（写真地理学），高阪宏行（日大，計量地理学），太田勇（東洋大，地理学特講），鈴木邦雄（横浜国大，地理学特講），齊藤功（筑波大，日本地誌Ⅱ），斎藤毅（東京学芸大，一般教育），木下良（国学院大，歴史地理学），河辺宏（人口問題研，院特論），正井泰夫（立正大，院特論），浜田竜之介（農工大，院特論），吉川虎雄（東農大，院特論）

専任教官の主要な学内委員会委員は，浅海教授（施設計画委員，人間文化研究科講座委員），式教授（予算委員，将来構想検討委員長，人間文化研究科講座委員），井

上教授（一般教育委員長），三上助教授（電算機室運営委員，入試委員），栗原講師（臨海実験所運営委員，図書選定委員）

今年度文部省科学研究費は，三上助教授（東アジアにおける18世紀後半の気候復元），浅海教授（地理学学術用語用法の適切化および外国語との対応）が受けた。

内藤助教授は文部省在外研究員として，「地域開発と雇用効果に関する比較研究」のテーマで，アメリカ合衆国およびイギリスに10カ月（60年9月～61年7月）間の滞在。三上助教授は南米ペルーおよびエクアドルに，共同学術調査（赤道アンデス地帯における第四紀の気候変化の研究）のため，60年8月～10月の3カ月出張，また「F G Eの成果」に関する国際会議に61年1月12日～19日の間，アメリカ合衆国に渡航した。

教室の在庫図書が年々増加するため，60年度末に図書室の書棚を拡充し，一部のやや不急図書雑誌類を文教育学部2号館内の学部共通図書室の書棚に移した。

61年3月から栗原講師の助教授昇格が決定した。また式教授は4月附属校長に就任することになっている。

59年10月から61年3月まで，マーガレット・コバルチック（ポーランド・ワルシャワ大学3年生）は，「日本地誌—とくに日本のマグロ漁業について—」をテーマに研究生（式教授指導）として在留した。60年4月から，李富貴（韓国，光州大学地理学修士）は都市地理学をテーマに研究生（井内教授指導）として在籍している。